

鶴岡市スポーツ推進審議会 会議録（令和5年3月27日開催）

○開催日時 令和5年3月27日（月）午後1時30分から

○会場 小真木原総合体育館 大会議室

○委員発言の概要

【令和5年度スポーツ団体等への補助金交付について】

・補助金が交付されている5つの総合型地域スポーツクラブすべてが繰越金や積立金などの財源が残っていることで減額されるのか。

→コロナ禍で事業の開催方法など見直しを図り、事業費が減少していることで繰越金などが残っていることが減額の要因の一つである。

・総合型地域スポーツクラブ活動支援事業補助金が減額されることは、市の財政的にも了承するが、繰越金が増える理由としては年度はじめに会員の保険料を支払いするなどいろいろな事情があることを配慮してもらい、今後とも支援をお願いする。

・スポーツ・レクリエーション教室運営補助金が減額されることについて、令和4年度に申請していない団体が、令和5年度に申請したい場合は対応してもらえるのか。

→予算の範囲内での対応となる。多くの団体から教室を開催してほしいと考えている。

【令和4年度スポーツ振興主要事業等の実施状況について】

・てくてく健康里山あるきは、非常にネーミングもいいし、鶴岡の自然にふれながら地域の資源を活かした事業で素晴らしいと思う。令和4年度のてくてく健康里山あるきの参加者報告の中に県外の参加者はいるのか。毎年同じ参加者で新規の参加はいるのか。親子で参加する方もいるか。

→県外に参加者を募集するのは、「みんなで歩こう里山あるき」や「国際ノルディック・ウォーク in 鶴岡」の「つるおかスリーデーウォーク」であるが、令和4年度はコロナ禍であり、参加者を山形県内に限定して開催した。2月の実行委員会で令和5年度は、参加者を全国に募集して開催することが決まった。

てくてく健康里山あるきでは、半分以上が毎回参加している方で、残りが新規の方である。中には親子で参加する方もいる。興味深いのは、酒田市や庄内町など近隣の市町からの参加希望者がいること。コロナ禍で人数制限（50人）をしていることから、定員に達しないときには受入れをしている。他の市町では、誰でも参加できるウォーキング事業をあまり展開していないのではと考えている。もともと「みんなで歩こう里山あるき」や「国際ノルディック・ウォーク in 鶴岡」は、県外からお客様を呼ぶ事業として始まっている。今後状況を見ながら事業を展開していければと考えている。

・3月5日開催の鶴岡地区体育協会連絡協議会主催のシルバーレクスポ大会で、ボッチャ大会を開催し、大変な盛り上がりだった。ホストタウンのレガシーとして、鶴岡市でボッチャ競技が盛んになったことを感じている。これまで鶴岡市内の地域体育協会連絡協議会だけで第25回の長きに渡り大会を開催してきたが、今回は、鶴岡市全体の地域に門戸を開き大会が開催されたことは非常に良かった。また、今までは複数の軽スポーツ競技を実施していたが、今回はボッチャに特化して開催され、大成功だったと思う。令和5年度以降も市内全地域に声を掛け、ボッチャに特化した大会にするのか、わかる範囲で教えてほしい。

→シルバーレクスポ大会では、初めてボッチャ大会を開催したことから、参加者の反応が非常に気になった。当日アンケートの結果は、参加者の95%が、概ね参加してよかったと回答し、楽しかったという意見だった。鶴岡地区体育協会連絡協議会で今後の方向性を決めていくことになるが、継続して、ボッチャ競技に特化した展開をしていければと考えている。

・ボッチャ大会に関連してボッチャ用具の貸出件数56件とあり、私もよくスポーツ課に借りに来る。藤島から借りに来て、また返しに来るとなると2往復の時間が、大変です。今後各地区の体育館等に2つ、3つボッチャ用具を設置してもらえるとありがたい。

→予算のことや貸し出しの仕方などを検討する。

・「3. (1) ②施設予約システムの活用促進」の「◇文化施設との連携」とはどのようなことか。

→スポーツ課で先行して運用している施設予約システムを、鶴岡市中央公民館でも利用できるように進めている。スポーツ施設だけでなく、文化施設でも施設予約システムを利用できるように進めているもの。

【令和5年度スポーツ振興重点施策について】

・トレーニングルームの令和4年度の利用状況があり、令和5年度もニーズに対応したトレーニングルームの安全利用に向けて充実した活動をお願いしたい。コロナ禍で利用者は減少していたが、中学生から高齢者まで利用者の幅が広い。使用頻度が高いものは故障する率も高くなり、今もトレッドミル2台が不調である。市民の声もあるので器具の充実を図ってほしい。

→市民の声を聞きながら、更新の計画を検討していく。

・施設予約は今まで紙ベースで予約申請して、許可され、お金を払う流れで、面倒であった。市外の方にとっては何重もの手間である。体育施設だけでなく、文化施設も施設予約システムを取り入れ、ウェブサイトですべて予約が完結できるように進めてほしい。

→J A鶴岡だだちゃアリーナは、電子申請も含めて、予約システムで申請が完結するように、ただいま仕組みを構築中であり、まもなく利用可能になる。また、使用料の支払いは、電子決済などを導入できるように検討中である。

・令和5年度鶴岡市教育委員会重点施策の中に、「(1) ④障害の有無にかかわらず誰もがスポーツを楽しめる環境の整備」とあるが、障害者の団体が体育施設をどのくらい利用されているのか。

→数字は持ち合わせていないが、本市の場合は、障害者団体、個人も含めて、利用する際は全額免除するため、適用を受けるために事前に登録してもらう。例えば、毎年開催している市長杯ボッチャ大会の前には、練習のために、障害者団体の方々が体育館で練習している。他にも定期的に、軽スポーツ等で使用している団体や市民プールでは、スペシャルオリンピックでも使用している。また、以前障がい者施設たかぐるまで開催されていたノーマライゼーション卓球大会は、参加人数の増加と、新型コロナウイルス感染症予防対策で、今年から小真木原総合体育館で開催された。誰もが活動できる体育館として大変うれしいことだ。これからも活用願いたい。

・「(1) ②子どものスポーツ機会の充実 ウ 休日における運動部活動の地域移行支援」とあるが、教育委員会の中では、スポーツ課のこの項目だけなのか。

→教育委員会の重点施策として、他の課でも項目をあげている。

・「(4) ③トップスポーツと地域スポーツとの連携・協働の推進」とある。県内のプロスポーツチームワイバンズやモンテディオのゲームは、村山地域中心に公式戦が開催できる場所として決まっているが、例えばトレーニングゲームなどが鶴岡で開催される予定があれば、教えてほしい。村山地域中心というところがあるが、鶴岡市でもプロスポーツの練習を見る機会を設けてほしい。

→トップスポーツを見る機会として、来シーズンにパストラボワイバンズの公式戦1試合とアランマーレの1試合がある。コロナ前までやっていたモンテディオ山形のトレーニングマッチなどは、ここ数年やっていないが、声掛けして、可能であれば見る機会を作っていきたい。

【休日における運動・文化部活動の地域移行について】

・実際に保護者会クラブの活動が多い状況であるが、移行期間が3年限定になっている。その先をどうするのか、最終的に何が足りなくなるのか、令和4年度に学校説明会を開催した経過でどんな課題が出たのか教えてほしい。

→国が示す3年間の救済的な措置としている保護者会のその先について、また、最終的に何が足りなくなっていくかについては、令和5年度から実施する総括コーディネーターを中心とした連絡調整会において、よりよい方向性を検討していく。次に課題と考えていることは、活動の責任の所在がどこになるのか。保護者会クラブは、毎年保護者が集まり活動する団体なので、子どもの成長とともに会長や会計が毎年変わる組織である。指導者への対応や子供たちのトラブルなど、何か起きたときに、誰の責任になるのかということが大きな課題である。地域移

行に伴い、指導者にかかる負担や経費も一つ課題になってくる。令和5年度から移行先となる団体に対する支援や部活動指導配置を行い、スムーズに移行できるよう支援していきたい。

・休日の部活動を学校ではやらないことで、地域移行になるが、中体連主催の大会には学校の先生が引率することになる。学校がお願いしている外部指導者は、各学校で1人か2人くらいだと思う。指導者の職種もばらばらで、土日が休みでない指導者もいるとなると、保護者会クラブの活動になると思うが、何かあった時の対応として、保険の加入の状況はどうなっているか。

→令和4年度から競技団体等と連携を図りながら、大会の参加について、検討している。中体連の大会では部活の顧問が当面の間引率することになる。競技団体主催の大会について学校の部活動で出場するか、地域のクラブで出場するか選択することになる。それぞれの大会参加要項に関わることなので、大会を主催する競技団体と連絡調整が必要である。また部活動で出場するか、地域のクラブで出場するかによって、保険の適用が変わってくる。部活動であれば学校管理下ということで、学校の保険が適用になるが、地域のクラブや保護者会クラブの活動においては、それぞれの保険が適用される。

・スポーツ少年団活動や大人のスポーツ活動も、スポーツ安全協会の保険に加入している。活動時のケガや賠償責任保険などが補償されるので、地域のクラブや保護者会クラブの活動でも同じように対応するよう説明をお願いしたい。

・今、中体連の大会に、一つの中学校では人数が足りなくて、すでに合同チームで出場しているケースがある。部活動として、合同チームと一緒に練習するのは大変難しい。平日の夜や土日などの休日に、どこかの中学校に集まって練習をしている。複数校が集まって活動することの難しさに直面しているようだが、スポーツ安全保険にはきちんと加入している。例えば、藤島中のサッカー部では人数が足りなくて、三中、朝日中、豊浦中の合同で出場している。三中は保護者会クラブ、朝日中・豊浦中・藤島中は、地域総合型スポーツクラブとして活動している。責任の所在がどこにあるのか、その違いで少しひずみが出てやりにくさがあるようだが、中体連に出場するには単独チームでは人数が足りないので合同チームで参加する必要がある。今後どのように活動していけばいいのか悩んでいるようだ。令和5年度にアドバイザーを設置する予定のようなので相談にのってほしい。また、中体連の大会に出場するために練習を合同で行っているが、練習の時間帯が部活動の時間外であることも悩みどころである。

→保護者会クラブ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団など形態は違うが、事前にチームの登録をしているので、合同チームとして出場し、勝ち抜けば、県大会、東北、全国にも出場できる流れになる。一番大事なのは子どもたちの活動機会である。大会参加の機会をきちんと確保していくことが大事と考えている。

→大会の参加について、中体連主催の大会（地区・県・東北や全国）については、部活動として学校の責任下で参加することになる。移行措置として、来年と再来年に中体連が共催する大会についても学校管理下での部活動として参加をするか、休日の体制で出場するか、どちらかを選択することになる。将来的には種目団体主催の大会については、部活動としてではなく、休日の体制での出場になると考えている。今課題になっているのは部活動でなくなった時に、教員が引率しなくなることで競技種目によっては、大会運営ができなくなるところが出てくるのではなかということ。今後も大会運営ができるように対応していかなければならないと考えている。

・中体連の大会参加について、今年度からクラブチームも参加できると認識していたがそうではなく、まだ先の話なのか。新聞などでは、学校、部活動と、それからクラブチームでも参加できると読み取っていた。中学生がどのように登録すればいいのかわかりにくく、非常に戸惑っていると思う。どのように学校から説明されるのだろうかと心配していた。今年は部活動とクラブチームの両方で参加できるようになると私は受けとめていたが、そうでないのか。

・恐らくサッカー種目の地域移行が今一番進んでいると思う。クラブチームに小学生、中学生が所属して活動していることで、中学校の部活動に人がいなくなっているのだと思う。現段階では、クラブチームが出場できるのは中体連の県大会から。地区総体は中学校の部活動が集まり大会を開催し、県大会にクラブチームの出場枠があり出場できることになる。それで中体連に出場できると思ったのではないか。令和5年度には、地区総体にクラブチームは出場できない。

・中体連の県大会では、クラブチーム1枠ということだった。クラブチームは、クラブチームのリーグなどで、選考すると思う。将来すべて地域に移行されると、バランスが取れていくと思うが、今すぐにすべての種目で足並みがそろうことは難しい。

→この状況が、何年か続き、クラブチームの出場枠が段階的に広がっていくと思うが、令和5年度はその初年度になり、4月上旬まで県中体連に登録し、4月中に種目が確定する。

・以前から子どもたちのスポーツ種目の選択肢をもっと広げていいのではないかと思って意見を述べてきた。中体連に加盟していないと部活として認められないことは理解できる。今、部活動の地域移行の改革が始まり、将来的には中体連の部活にない種目もクラブチームとして全国大会に通じるような道ができると、子どもたちの励みなると思う。クラブチームで小学生が楽しく活動し成長し、中学生になっても続けたいと思っている子どもたちがいる。指導者も全国大会出場を期待している子どもたちがいる中で、中学校の部活動にその種目がなくなり辞めていく。別の種目を選択することで伸びるかもしれないが、クラブチームの出場参加が認められると、同じ種目を続けることができる。そうなることを願っている。

【第2期鶴岡市スポーツ推進計画策定について】

・第2期鶴岡市スポーツ推進計画は、10年計画で策定するのか。

→10年計画で策定する。第1期鶴岡市スポーツ推進計画も10年を見通して策定し、前期5年の具体的な計画を作り、後期で見直しを図り改定している。今回策定する第2期鶴岡市スポーツ推進計画も、前期5年間の具体的な計画を盛り込みながら10年間のスパンで大きい計画を策定し、後期で見直しを図るように考えている。